

# 導来圏における Matlis dual と Grothendieck dual

岡山大学大学院 自然科学研究科 小野舞子

## 1 概要

本稿の内容は、吉野雄二先生との共同研究に基づくものである。

剰余体  $k$  の入射包絡の双対  $\text{Hom}_R(-, E_R(k))$  を Matlis dual と呼ばれる。一方で、正準加群  $\omega_R$  での双対  $\text{Hom}_R(-, \omega_R)$  は maximal Cohen-Macaulay 加群の理論においてが大切な役割を担っている。これらの双対に対して、条件つきではあるが、導来圏で自然な同型を得ることができ、そのうえ一般化となる定理を導くことができた。さらに、圏論的な視点から Auslander-Reiten duality の一般化ができた。以上のことをまとめて報告する。

## 2 準備

以下、 $(R, \mathfrak{m})$  を剰余体  $k$  をもつ  $d$  次元の可換 Noether 局所環とする。

**定義 2.1.**  $M \neq 0$  を有限生成  $R$  加群とする。 $\dim_R M = \text{depth}_R M$  が成り立つとき、 $M$  を Cohen-Macaulay (CM) 加群という。環  $R$  が  $R$  加群として、CM 加群となるとき、 $R$  を Cohen-Macaulay (CM) 環という。また、有限生成  $R$  加群  $M$  が  $\dim R = \text{depth}_R M$  を満たすとき、maximal Cohen-Macaulay (MCM) 加群であるという。ここで、 $\text{depth}_R M$  は、 $M$  正則列の長さの最大値を表す。

**定義 2.2.**  $I_R$  が dualizing complex であるとは次を満たすときをいう。

1.  $I_R$  は入射加群からなる有界な複体である。
2.  $I_R$  のコホモロジーは全て有限生成である。
3. 自然な写像  $R \rightarrow \mathbf{R}\text{Hom}_R(I_R, I_R)$  は同型である。

さらに、dualizing complex  $I_R$  が *normalized* dualizing complex であるとは、 $i < 0$  では  $I^i = 0$  であり、 $H^0(I_R) \neq 0$  を満たすときにいう。

**定義 2.3.**  $M$  を  $R$  加群とする。

$$0 \rightarrow N \rightarrow F_{i-1} \xrightarrow{d_{i-1}} F_{i-2} \cdots \xrightarrow{d_2} F_1 \xrightarrow{d_1} F_0 \rightarrow M \rightarrow 0$$

を  $M$  の極小射影分解とする。このとき、 $N$  を  $M$  の  $i$ -th syzygy と呼び、 $N = \Omega^i(M)$  と表す。ただし、 $\Omega^0(M) = M$  と定める。

さらに、 $\text{Coker}(\text{Hom}_R(d_1, R))$  を  $M$  の *transpose* といい、 $\text{Tr}(M)$  とかく。

定義 2.4.  $M, N$  を有限生成  $R$  加群とする .  $\mathfrak{P}(N, M)$  を  $N$  から  $M$  への準同型写像のうち , 自由加群を経由するような写像からなる集合とする .  $\mathfrak{P}(N, M)$  は  $\text{Hom}_R(N, M)$  の部分  $R$  加群となる . このとき ,

$$\underline{\text{Hom}}_R(N, M) = \text{Hom}_R(N, M) / \mathfrak{P}(N, M).$$

また、 $\underline{\text{End}}_R(M)$  を  $\underline{\text{Hom}}_R(M, M)$  と表す .

補題 2.5 ([3]Lemma 3.9.).  $M, N$  を有限生成  $R$  加群とする . このとき , 次の  $\underline{\text{End}}_R(N) \times \underline{\text{End}}_R(M)$  加群の同型を得る .

$$\underline{\text{Hom}}_R(N, M) \cong \text{Tor}_1^R(\text{Tr}(N), M)$$

定義 2.6.  $M$  を有限生成とは限らない  $R$  加群とする .  $\dim R/\mathfrak{p} \geq n$  となる素イデアル  $\mathfrak{p}$  に対して ,  $M_{\mathfrak{p}} = 0$  であるとき ,  $\dim \text{Supp} M \leq n - 1$  と定義する .

### 3 主結果

以下 ,  $R$  は normalized dualizing complex  $I_R$  を持つとする .  $\text{Mod} R$  を  $R$  加群のなす圏とする . また ,  $X \in \mathcal{D}(\text{Mod} R)$  に対して ,  $X^\vee = \mathbf{R}\text{Hom}_R(X, E_R(k))$  ,  $X^\dagger = \mathbf{R}\text{Hom}_R(X, I_R)$  と表す .

定理 3.1.  $Y \in \mathcal{D}^-(\text{Mod} R)$  に対して ,  $i < 0$  のとき  $\dim \text{Supp} H^i(Y) \leq 0$  であるとする . このとき ,

$$\tau^{>0}(Y^\vee) \xrightarrow[\text{nat}]{\sim} \tau^{>0}(Y^\dagger[d])$$

は  $\mathcal{D}^+(\text{Mod} R)$  で自然な同型を与える .

定理 3.1 の証明を同じようにすることで , より一般的な形を示すことができた .

定理 3.2.  $Y \in \mathcal{D}^-(\text{Mod} R)$  に対して ,  $i < 0$  のとき  $\dim \text{Supp} H^i(Y) \leq 1$  とする . このとき , 次の完全列を得られる .

$$\begin{array}{ccccccc} \text{Hom}_R(H^{-1}(Y), I_R^{d-1}) & \longrightarrow & H^1(Y^\vee) & \longrightarrow & H^{d+1}(Y^\dagger) & \longrightarrow & \\ \text{Hom}_R(H^{-2}(Y), I_R^{d-1}) & \longrightarrow & H^2(Y^\vee) & \longrightarrow & H^{d+2}(Y^\dagger) & \longrightarrow & \\ & & \dots & & & & \\ \text{Hom}_R(H^{-i}(Y), I_R^{d-1}) & \longrightarrow & H^i(Y^\vee) & \longrightarrow & H^{d+i}(Y^\dagger) & \longrightarrow & \\ \text{Hom}_R(H^{-i-1}(Y), I_R^{d-1}) & \longrightarrow & H^{i+1}(Y^\vee) & \longrightarrow & H^{d+i+1}(Y^\dagger) & \longrightarrow & \\ & & \dots & & & & \end{array}$$

さらに , 定理 3.1 から , 導来圏を使った方法で Auslander-Reiten duality と呼ばれる次の定理に証明を与えことができ , その上 , Auslander-Reiten duality の一般化を得ることができた .

定理 3.3. [3, Lemma 3.10(Auslander)]  $R$  は CM 環であり, 正準加群  $\omega_R$  をもつような環とする.  $M, N$  を MCM  $R$  加群とする. さらに,  $M$  を *punctured spectrum* で *free* とする (すなわち, 極大イデアルでない素イデアル  $\mathfrak{p}$  に対して,  $M_{\mathfrak{p}}$  は自由  $R_{\mathfrak{p}}$  加群であるとする.) このとき, 次の同型が成り立つ.

$$\mathrm{Ext}_R^d(\underline{\mathrm{Hom}}_R(N, M), \omega_R) \cong \mathrm{Ext}_R^1(M, \tau N)$$

ここで,  $\tau N = \mathrm{Hom}_R(\Omega^d(\mathrm{Tr}(N)), \omega_R)$  である.

定理 3.4.  $M, N$  を MCM  $R$  加群とする.  $\dim R/\mathfrak{p} \geq 2$  なる素イデアル  $\mathfrak{p}$  での局所化  $M_{\mathfrak{p}}$  が自由  $R_{\mathfrak{p}}$  加群であるとき, 次の完全列を得る.

$$\begin{aligned} \mathrm{Hom}_R(\underline{\mathrm{Hom}}_R(N, M), I_R^{d-1}) &\longrightarrow \underline{\mathrm{Hom}}_R(N, M)^\vee \longrightarrow \mathrm{Ext}_R^1(M, \tau N) \longrightarrow \\ \mathrm{Hom}_R(\underline{\mathrm{Hom}}_R(N, \Omega(M)), I_R^{d-1}) &\longrightarrow \underline{\mathrm{Hom}}_R(N, \Omega(M))^\vee \longrightarrow \mathrm{Ext}_R^2(M, \tau N) \longrightarrow \\ &\dots\dots \end{aligned}$$

## 参考文献

- [1] R.HARTSHORNE, Residues and Duality, Springer Lecture Notes in Mathematics, no.20(1966)
- [2] W.BRUNS and J.HERZOG, Cohen-Macaulay rings, revised edition, Cambridge Studies in Advanced Mathematics **39**, Cambridge University Press, Cambridge (1998)
- [3] Y.YOSHINO, Cohen-Macaulay modules over Cohen-Macaulay rings, London Mathematical Society Lecture Note Series, **146**, Cambridge University Press, Cambridge(1990)